

「丘珠空港の利活用に関する検討会議」報告書

住民説明会及び意見交換会

第7回 開催報告

議事概要

対象地域：拓北・あいの里連合町内会のうち茨戸・
福移通以南の地域

開催日時：平成30年10月31日（水）19：00～20：30

開催場所：拓北・あいの里地区センター多目的ホール（北区あいの里1条6丁目）

参加者数：市民15名（地域の方5名、地域以外の方10名）、
札幌市（事務局）4名、北海道（オブザーバー）1名、
道銀地域総合研究所（事務局）4名 計24名



1. 開会挨拶

（札幌市より挨拶）

2. 出席者の紹介

（事務局紹介）

3. 「丘珠空港の利活用に関する検討会議」報告書の説明

（札幌市より説明）

4. 意見交換

<地域内住民より>

○ご意見

【利活用の検討の進め方について】

・札幌市は1996年の丘珠空港の住民合意に違反し、ジェット機を飛行しており、滑走路の延伸の案まで出した。住民地権者に対し補償や手当をすべきである。

※住民合意では環境基準を越えない範囲での運航便数とするという内容になっており、現在も合意を守りながらジェット機を運航しています。

- ・15年前、民間機が東区の住宅地に墜落した際、防衛省は丘珠空港を石狩に移転する計画を出しており、次に住宅地へ墜落事故があった場合は移転すると聞いている。重大事故が起きる前に札幌市は防衛省に対し、石狩への早期移転を要請すべき。

※第3回において回答済み

(再掲) 石狩への空港移転に関する正式な計画について、国が出したということは聞いていない。

※民間機の墜落について、運輸安全委員会の公表資料によると、15年前に発生した事実は無く、31年前の昭和62年に札幌市東区で墜落事故が発生した記録があります。

【利活用策について】

- ・新幹線トンネル工事の残土処理問題があるが、その土を空港周辺、南あいの里の南側、丘珠空港の北東方向の原野雑種地の市街化のために使用、再利用するという手がある。
- ・飛行機が上を飛ぶのが嫌であればここには住めない。住民は地方に飛んでいきたいし、急用もあるため、滑走路が短いのであれば延長してほしい。

【空港周辺の環境について】

- ・丘珠空港周辺は、市街化調整区域に指定され続け、不公平である。市街化調整区域の解除を求める。
- ・航路直下では、土地や建物の上空を飛行され財産権を侵害している。裁判判例を調べたところ札幌市では航空機の影響を考慮して、固定資産税に差をつけているようだが、その範囲がわからないため、我々にもわかるように明示してほしい。
- ・航空機からの落下物が非常に多く、特に冬は、雪や氷が落下しているのを目視で見たことがあり、自身も3度被害を受けた。
- ・毎日、室内でも受忍レベル70dBを超える騒音に悩まされている。近所の保育園の園長先生からは、騒音でお昼寝の時間に起きてしまうという話も聞いている。

【本説明会の運営について】

- ・札幌市が課題等を一生懸命作成して、討議しましょうという会なのだから、もう少し活発に将来性のある意見を出してほしい。

○ご質問

【利活用の検討の進め方について】

- ・今日聞いた答えには具体的な数字が出てこない。これでは騒音の問題にしても、採算面にしても、誰しものが納得いかない。もっと綿密なデータを取って、市として反論することも必要だ。

(回答) 現段階ではケーススタディという状態で、まだ詳細には進めていない。もし今後進めていくのであれば、きちんと調査し進めていかなければならない。

【空港周辺の環境について】

- ・もし騒音が環境基準を超えると立証された場合、札幌市が防音工事代金等の実質補償はしていただけるのか。

(回答) 現在は環境基準を超えていないため補償まで至っていないが、騒音に関してどこに責任があるということであれば、先ず国と話してからとなる。

【整備に関わる費用について】

- ・滑走路延伸の資金源は税金であり市民の負担になる。これからどうやって採算を合わせていくのが大きな問題になる。道内空港のどこが黒字で、どこが赤字なのか。

(回答) 道内では、黒字は新千歳空港くらいであり、その解消方法として民間委託が考えられている。この報告書は案であり、将来の収支については出していないが、今後、他の事業とも比較しながら検討して行く必要がある。

- ・赤字額、収入額、収入の見込み、滑走路延長により増便した場合の増益等を計画段階で出さなければ現実とはならない。少子化で人口が減少し、赤字で市民の負担が増えるという結果になるのではないか。数字上の問題を上げてもらわなかったら、市民としては納得ができない。

(回答) 今後実際に計画していくにあたっては、具体的な数字等を示す必要性がある。現状ではまだそこまで至っていない。

【その他】

- ・現在、丘珠空港はマイナス収益なのか。

(回答) 空港の収支は、滑走路の収入は国に入り、空港ビルの収入と相殺しても赤字が現状である。

<地域以外の方より>

○ご意見

【空港周辺の環境について】

- ・誰もが納得できる騒音測定のあり方を検討していただきたい。

○ご質問

【利活用策について】

- ・具体的に現在の滑走路長の1,500mでできることは何項目あるか。

(回答) 滑走路延伸と関わってくるものから説明すると、一つ目は道外地方主要都市間の新規路線等誘致であり、仮に一年中、ジェット機で道外に飛ばすのであれば延長が必要である。二つ目のLCCの誘致は、LCCの飛行機が1,800m以上の滑走路が必要であり、これも滑走路の延長が必要となる。三つ目がメディカルウィング用エプロン・格納庫の整備であり、今飛ばしている飛行機が夏場は1,500mで飛ぶが、冬場は1,800m以上ないと飛ばず、滑走の延伸が必要。それ以外の項目は、必ずしも延伸を必要としない内容となっている。

【空港周辺の環境について】

・札幌市は騒音問題をどのように考え、どのように解決していくのか。

(回答) 騒音で不安を感じる方がいることは認識しており。現状では、騒音調査を毎年実施し、国が示した基準の範囲に収まっていると判断しており、それに対して新たに施策等を行う状況にはない。

5. 閉会

以上